

# 集落協定 かわら版 (第2号)

(平成14年9月13日 山口県農村振興課)



## 集落営農で農地を守る

・・・柳井市伊陸(いかち)  
木部(きべ)協定・・・

### 交付金で共同機械(田植機)を購入

「今年の春に6条植えの田植機を購入し、4haで田植えをした。」「地区の水稲作付面積は10ha。1年目にしては、まずまずの利用だった。」そう話してくれたのは、柳井市木部協定代表の松村清巳さん。

### きっかけは圃場整備

木部集落では隣の2集落とともに、平成10年から圃場整備に取り組み、今年で完了します。整備後は農作業を担い手農家に集積していく計画です。

一緒に圃場整備を行った3集落で「伊陸北部営農組合」を設立し、木部集落は営農組合の支部として活動を開始。担い手に農作業を効率的に集積していくための調整活動が主な活動です。

そんな時に集落協定の話がありました。



木部協定代表の松村さん

〔市内全協定で設置されている看板と〕  
大豆畑の前で

### 若手を中心に協定内容を検討、交付金は全額共同で使用

集落協定に取り組むためには、制度の周知のほか対象農地の選定、共同活動の検討などが必要ですが、営農組合の活動が開始されたばかりだったこともあり、初めはまとめ役になる人がいませんでした。そのため、集落協定は見送る予定でしたが、松村さんが40・50代の人に呼びかけて話し

合い「せっかくの機会だ」と営農組合の専門部会として協定に取り組むことを決めました。

交付金は全額共同で使います。「この点は圃場整備をきっかけに何年も前から話し合いを重ねてきた成果かもしれない。」

「協定に取り組んで良かった。今後は機械の格納庫も必要になるし、交付金を有効に活用したい。」と夢がふくらみます。

### 近隣地域とも連携して

木部支部には、田植機のほか、別に購入したトラクターがあります。転作では大豆を栽培していますが、播種などの機械作業は近くの営農組織「(農)ファーマー日積(ひづみ)」に頼みました。「近くに同じように集落営農に取り組む地区があると、お互いに参考になるし、助け合うこともできる。」

それぞれの集落で営農を考え、更にもう少し広い範囲でも営農を考える。そんな活動が進んでいます

### 集落営農で農地を守る

4haの田植えをした春以降、集落内に「若い者もやるじゃないか」といった雰囲気が出てきたことを松村さんは感じていません。今後とも営農組合で担い手を育て、農地を守っていく考えです。

木部集落では、圃場整備、集落営農組合の設立、集落協定と、タイミング良く取組が進んできました。話し合いの素地があったことが交付金の有効活用にもつながりました。

制度は今年が3年目。県内にはようやくスタートした感のある協定も多いと聞きますが、せっかくの交付金です。有効に使いたいものです。(西村)

## 集落でまとまってイノシシを防ぐ

・・・宇部市小野 来見(くるみ)協定・・・

### 鳥獣被害は中山間地域共通の悩み

中山間地域では、高齢化や担い手不足のほか、鳥獣被害という課題も抱えています。県内の被害額は年間9億円近く。イノシシ被害は群を抜いており、田畑をトタンで囲むイノシシ防護柵は中山間地域の景観になってしまった感さえあり、共通の悩みです。

交付金で電気柵を設置し、イノシシ被害を無くした宇部市来見協定を訪ねました。

### 試行錯誤のイノシシ対策

来見集落は、宇部市北部の小野地区にあり、8戸のうち5戸が農家です。協定代表者の藤本孝二さんを訪ねました。

「4、5年ぐらい前から、イノシシが出るようになった。タイヤを燃やしたりカンテラをつけたり、海苔網も張ってみたりしたが、いずれもすぐ慣れて全くダメ。そこで目をつけたのが電気柵。少々高いし除草の見回りもあるが、みんなでやらないと効果があがらないと感じていた時に、協定の話しがあったんだ。」



来見協定代表の藤本さん

### 地区内4ブロックを電気柵で囲う

「集落協定は渡りに舟だった。すぐ手を

挙げて、平成12年に電気柵の設置を始め、13年には集落全体に張りめぐらした。それからはイノシシ被害は全くない。」

「平地も含めて集落の全農地を対象に、地区を4ブロックに分けて張った。総延長は3km、張るのに2日かかるし、雑草や枝葉で漏電しないよう見回りも必要だ。途中の管理も含め、集落みんなの協力が欠かせない。」



電気柵のそばで

### 協定の効果

「電気柵は今のところ効果がある。交付金で荒神様の整備はしたけど、他にも集会所の改修などやりたいことはいろいろある。防除を共同でやればという話もある。交付金は取組みを進めるために大変ありがたい。この地区は戸数が少なくまとまりやすいが、協定により対話がより濃密になった。」

### 将来を見通して

藤本さんには一方で一抹の不安もあるといます。

「5戸で12haを耕作して、荒廃地が出ないようにやってきたが、高齢化が進み将来には不安がある。近隣集落と連携して守っていくことも考えざるを得ないのではないか。個人のエゴが出ると話しがまとまらない。集落という単位で大きなメリット

を求めてまとまらないと。でも、酒をかわして腹を割って話す機会もいるけどね。」

そんな藤本さんの笑顔が集落をまとめているのかも。多彩な年間行事をはじめ、何事にも集落一体で取り組む来見協定でした。(柳田)

## みかん園の将来を話し合う

・・・橋町日前(ひくま)松田協定・・・

### 協定の効果

「息子が5年後に定年で帰ってくるけど、それまで誰かみかん園を管理してくれんかの〜。」共同作業の時の誰かの声がきっかけで、預かってくれる人が見つかりました。

「そんな効果もあるんだねえ。」橋町の松田協定代表、山根聡さんはそう言って協定の効果を話してくださいました。

### 共同活動は農道の草刈り

協定面積8ha、参加者25人、みかん園は畑地の単価が適用されるので交付金は37万円。1/2が共同活動に使われます。

共同活動は、農道の草刈りで、協定周辺の廃園も一部を草刈りしています。これまでも草刈りは行っていましたが、協定締結後は、共同活動として行っています。

「大きな農道は全員で、それぞれの畑に通じる小さな農道は受け持ちを決めて」管理しているそうです。

### 話し合いが活発に、そして課題も

農家の2/3は65歳以上です。「お互いに知らない仲ではないけど、年寄り若者と話す機会が減っていた。最近は祭りが無くなっていたからね。共同活動をきっか

けに、年代を超えた話し合いのきっかけができてよかったよ。」

協定をきっかけに、話し合いの機会が生まれ、世代を超えた交流がよみがえり、みかん園の管理の話し合いもできるようになってきました。山根さんは最近、協定に「手応え」を感じています。

「農道を挟んで2つの協定があるけど、一緒にしておけば良かったなあ。」隣の協定とは農家の半数が重なっているだけに、足並みをそろえた活動を行うことが今後の課題のようです。



松田協定代表の山根さん

### 優良園の団地化を目指して

「高齢化が進み荒廃園はこれから急速に広がると思う。このままでは、虫食い状に農地が荒れていく。」そんな状況の中、「品質が良く、生産効率の良い場所に果樹園を集約していきたい。」と意欲を語ります。

「人や農地のことをよく知っている地元の人間が、受委託などの情報を交換し、優良園を荒廃させないことが大切だ。」

みかんなどの果樹では水田と比べて共同活動が少ないことから、活動内容や交付金の使途で悩む協定も多々あります。

松田協定では、活動をきっかけに皆が営農について話し合うようになってきました。

た。みかん園の将来について、話し合いが深まることを期待したいものです。(西村)

### ～ お し ら せ ～

#### 中山間地域活性化シンポジウム

期日：11月30日(土)

場所：山口県セミナーパーク講堂

内容：直接支払制度の効果や課題について

#### 補助事業の紹介

がんばる「やまぐち中山間地域づくり」支援事業について

集落協定は、農地保全が第一目的ですが、協定の活動をきっかけに地域づくり活動に取り組む地区も多くあります。

この事業は、そのような地域(集落)を応援する補助事業です。

これまで65の集落や組織がこの事業を活用し、新たな直売活動や都市農村交流などに取り組んでいます。

事業にはいくつかの条件がありますが、「こんなことをしたい」、「あんなことをしたい」という意欲のある集落の皆さんは、この事業の活用を検討してみてもはいかがでしょうか。

詳しくは、最寄りの市町村役場にお問い合わせください。

### ～ 編 集 後 記 ～

取材した3協定とも、農地保全や営農活動に直接支払制度を活用したいという気持ちがいっぱいでした。

9月4～6日に秋吉台で開催された「山口ツーリズムスクール」(農村をわかりやすく案内し地域の楽しみ方を紹介する交流エスコーター養成コース)には、集落協定役員の参加もありました。

制度への取組みをきっかけに、各地で農業・農村を元気あるものと意欲やパワーが高まっていると感じています。(西村)